

報 告 書

島田市議会議長 藤本 善男 様

島田市議会議員 山本 孝夫

島田市議会議員 天野 弘

島田市議会議員 横山 香理

島田市議会議員 平松 吉祝

議会報告会に出席しましたので、次のとおり報告します。

- 1 日時 令和6年5月18日（土）
午後6時30分～午後8時00分
- 2 会場 初倉公民館 くらら 第1・2集会室
- 3 参加者数 17人（男性12人、女性5人）
- 4 役割
 - (1) 受付 全員
 - (2) 司会 横山
 - (3) 挨拶（概要） 山本
 - (4) 報告 厚生教育常任委員会 天野
経済建設常任委員会 平松
総務生活常任委員会 横山
 - (5) 答弁 全員
 - (6) 記録 天野

5 報告事項

(1) 議会活動の報告について

① 厚生教育常任委員会

令和6年度一般会計予算については、令和4年度決算審査において提言した学校施設の修繕費の確保と安全安心な学校給食の提供について重点的に審査した。学校施設予算については引き続き確保を、学校給食の食材費の高騰については、今年度は国の交付金で対応できるが、今後については重点的に見ていく。

重層的支援体制整備事業については、複雑化した社会問題を包括的な支援体制で解決する事業で、今年度は準備的な予算である。

その他の予算では、国民健康保険税、介護保険料、後期高齢者医療保険料の料金に関して改正案が出されたが、いずれも承認された。

② 経済建設常任委員会

令和6年度一般会計予算を審議した。プレミアム付きデジタル商品券事業は、LINEクーポンと同じ物価高騰対策の一つである。高齢者等のデジタルの不得意な方への対応を求めた。

森林環境整備促進事業は、森林環境税を財源とする事業であり、その使い方が議論された。

川越遺跡整備事業では、川会所の移築のための設計を令和6年度に行い、7年度に移築する予定である。

その他、土木費が15年前に比べ大幅に減少しているので、道路の補修等の確保については要望している。

③ 総務生活常任委員会

令和6年度一般会計予算については、令和4年度決算審査において提言したシティプロモーション推進事業及び移住・定住促進事業に対して議論が行われた。シティプロモーションは東京駅での緑茶縁日の開催事業であり、移住定住ではYouTubeでの再生回数が130万回を超えており注目された。

消防団活動経費については、消防団員確保には活動の負担軽減が必要である。

常任委員会では、手数料条例の一部改正や旧金谷中学跡地の利用の状況について議論がされた。

④ 報告に対する質疑

Q 空き家対策について伺う。令和6年度に調査し、その結果に基づき7年度に検討、8年度に実施となっているが、それではあまりにも対応が遅いのではと感じる。代執行をいかに行うかが課題ではないか。

Q 中河地区では空き家がどんどん増えている。調査をこれからしていくのでは勘弁してほしい。もっと具体策に取り組むべきではないか。

A 状況が分かっていることも含めて、今後調査することになっている。

Q 学校給食費の値上げについて伺う。令和6年度については、値上げはないとの理解でいいか。現在、月に小学校で5千円、中学校で6千円を払っている。これは、子育て世代にとっては大きな負担となっている。7年度以降の値上げが検討されているとの説明があったが、議員として値上げに反対していただきたい。全国的には無償化している地域もある。特に、貧困家庭では値下げをすべきではないか。子育て世代の意見を聞いていただきたい。議員は、子育て世代の意見を聞いているのか。

A 令和6年度については、国の交付金を高騰分に手当するので値上げすることはない。値上げの動きについては、議会、当委員会としても反対する。多くの市民の皆様のご支援をいただければありがたい。子育て世代の応援をしていきたい。議員だけでなく、市民の皆様の声聞いて対応していきたいので、ぜひ皆様の支援をいただきたい。

A 今年度、国から物価高騰対策として、本市には2億円の交付金があった。このうち、3千万円が学校給食に充てられる。その他、デジタル商品券や燃油高騰分など、物価高騰対策として支給される。

Q 国の交付金の残り1億5千万円がどこで使われるかがよく分かった。KADODE OOIGAWAの道路整備等に20億円程かかっていると聞く。また、旧金谷中学校跡地を活用する事業者が決定しているにもかかわらず、いまだに周辺整備費が使われるのはおかしいのではないか。

A 旧金谷中学校跡地整備事業は、基本的には終了している。今残っている整備は、事業者や跡地への整備費ではなく、その周辺の整備にかかるもので、今後大きな予算を使うことはない。物価高騰の交付金2億円のうち、プレミアム商品券に3千万円使われ、それ以外には燃油対策などいろいろな対策に活用される。

A 旧金谷中学校跡地だけでなく、空港周辺の整備を含めて、地域の活性化につながるような整備を進めていくと聞いている。

Q デジタル商品券について質問する。前回はコロナ対策でプレミアム商品券事業が行われたが、今回はどのようになっているのか。再度、プレミアム商品券を発行する予定があるのか。

A 以前はLINE クーポンとして行われた。今回も、前回のLINE クーポンと同じようなシステムである。今回もスマートフォンを利用するクーポンで、高齢者でも使用できるクーポンであることを当局に確認した。

Q 前回のクーポンは評判がよかった。なぜ同じLINE クーポンではないのか。藤枝市のPayPay クーポンは評判がいいが、島田市では対応できないのか。

A どのやり方がいいのか判断は難しいので、当局に確認していきたい。

(2) 意見及び情報の交換について

今回のテーマ「中小一貫校の今後のあり方」

山本議員から、中小一貫教育についての経緯と、これまでに「教育の在り方検討委員会」において出された提言について説明した。そして、なぜ今回このことをテーマとしたのか併せて説明した。北部4校の統廃合において、直前になって保護者や地域住民から意見が出され、少し混乱したこともあり、早めに地域の意見を当局に出していきたい。

Q 元教員である。初倉小、初倉南小ともに、現在の生徒数でも決して少ない人数ではない。初倉小は現在全校で17クラス(415人)、学年3クラスとなっている。子どもにとって20人位がちょうど良い。最近では生徒数が増える傾向もある。初倉小学校としては統合する必要がない。統合することによって1学年4～5クラスになると、かえって授業の進め方が大変になったり、田植え等の地域との連携学習等の対応が難しくなってしまうことが懸念される。提言が出されていても、統合を急いで行う必要性がないと感じている。また、統廃合が決まると、老朽化した校舎を修繕しなくなることを心配している。伊太小では閉校が決まってから体育館等の修繕工事が滞ったと聞いている。少子化が進んでいるから、統廃合するのではなく、少子化対策は行政がすべき課題ではないか。

A 北部地域の学校の統廃合を経験して、実際には学校を減らすことが大前提になっているような気がする。島田市は学校が多いと言われている。この点については委員会でも議論していきたい。「子どもたちの教育のため」と言われると、私たちは教員ではないので、分からないことが多い。このことについては、学校の先生方の意見を聞いて判断していきたい。ご指摘された意見については、今後十分に配慮していきたいと考える。

Q 学校連絡協議会のメンバーとして参加してきた。協議会は3校合同で開かれていた。また、中学生と小学生の交流も盛んに行われており、先生方の連携も進められていると感じている。今後、教育機能をどのように進めていくのが重要であり、機能強化のために小中一貫を進めるのであれば良いことだと思う。郷土愛をどのように育てていくのが大切な課題である。学校を統廃合するので、施設の修繕費を削減されることあるのか。

A 初倉の学校は市の「夢育・知育」の実践モデル校になっている。一貫校の課題については、皆様の意見を聞きながら進めていきたい。

(3) 市等への要望事項

Q 関東地域から島田市船木に移住してきた。島田市は素晴らしい市なので、積極的にアピールすることが大切ではないかと思う。関東では、国際化を目指した学校も現れてきている。島田市は、自然を生かした特別な教育をするために統廃合としている。子どもたちがわくわくする特別なコンセプトを掲げて、それを実現するために統廃合することは重要ではないかと思う。お茶が大好きで移住した。しかし、友人の茶農家が皆苦しんでいる。後継者がいなく悩んでいる。茶の後継者を育成するような教育方針を掲げていることも大切ではないか。

A 地域愛という言葉が出てきたが、そこが重要ではないか。地元を一旦出ていってもまた帰ってくるような教育することが大切ではないかと思う。

Q 茶農家の売上高が毎年下がっている。初倉地区には茶生産農家の若い後継者がいるので、市としてこの人たちを支援する方針をお願いしたい。プロモーションではなく生産者を支援してほしい。島田市のお茶、お茶を通じて島田市をアピールしていただきたい。

A 昨年度、経済建設常任委員会で農業後継者の育成という課題で福島市を視察調査するなど、委員会としても積極的な取組を行っている。視察した福島市の取組を参考にしていきたいと考えている。これからは人材育成が大切で、この地域はお茶である。お茶で困っているのに、お茶のプロモーションでもないだろうと思っている。常任委員会の中でも議論していきたい。委員会として提言を行っていきたい。

Q みかんはブランド化が行われ、生き残ってきた。清水や三ヶ日などである。消費拡大、PRのためには、個々の活動や取組が必要ではないか。

A 茶産業をこれからどうしていくのか、しっかりとした議論を重ねていきたいと考える。

Q 島田市に移住してきてから感じていることがある。牧之原市や御前崎市では、高齢者の食料難民が発生している。買い物に行けない高齢者が増えている。島田市はこれから日本の中心になるのではと考えている。裾野市ではウーブン・シティ構想、三島市では自動運転システム、浜松や静岡市でも同じような試みが行われようとしている。新しい技術を積極的に取り入れるようにしていったらどうか。日常の小さな課題を解決することも大切であるが、大胆な提案がされれば市民がワクワクするのではないかと考える。島田市周辺の市町も併せて人口 20 万人、周辺を取り込んで進めることが重要と考える。道路が広く渋滞も少ない島田市で自動運転の実証実験をやってみたらどうかと考える。

A 長野県安曇野市に視察に行った。目指す自動運転の実現等には、足元の交通機関であるタクシーやバス会社等との調整が必要になってくる。これからも取り組んでいきたい課題でもある。

Q 終戦後、米国は余った小麦を日本に提供し、日本人がもっとパンを食べ小麦を輸入するように仕掛けた結果、食の欧米化が進んだ。茶の消費拡大についても、同様に、したたかさをもって茶の消費を拡大するような施策が必要ではないかと考える。子どもたちがお茶を飲む機会を創出することを検討すべきでは。

A 学校給食でのパン、脱脂粉乳はそのとおりであったと思う。国家戦略としては重要と考える。JA として北海道の小学校に茶を提供しているが、わずかであった。ご提案として考えさせていただく。

6 まとめ（所見）

今回の議会報告会でも市民から様々な意見や質問、要望が寄せられた。特に、今回移住者から貴重な意見が出されたことは大変参考になった。意見や要望については、委員会や一般質問等で市民の意見として声を反映し、今後の市政につなげていきたいと考える。